

(技術名) シャコガイ母貝の成熟促進技術開発							
(要約) これまで人為的に為し得なかった冬季におけるヒレジャコ及びヒメジャコの採卵に成功した。ヒレジャコは15個体程度の母貝を26～28℃に加温飼育することで、ヒメジャコについても20個体程度の母貝を26～28℃の加温飼育と照明を併用することで、冬季における採卵が可能であることが分かった。							
水産海洋研究センター 石垣支所					連絡先	0980-88-2255	
部会名	水産業	専門	種苗生産	対象	シャコガイ	分類	研究
普及対象地域							

[背景・ねらい]

当センターでシャコガイの増養殖技術開発に取り組んだ結果、ヒレナシジャコ、ヒレジャコ、ヒメジャコの種苗生産を行うことが可能となり、現在、当センターで生産した種苗を県内の漁業関係者に配布している。シャコガイの養殖技術も開発され、その方法が県内に普及した結果、種苗の要望数は急増するようになった。しかし、これらの採卵時期はいずれも春季から夏季に限られており、採卵及び種苗生産時期が重なるため増加した要望数に応じることが困難な状況にある。そこで、これらの採卵を任意の時期にずらして種苗生産出来れば、増加する種苗要望数に対応する事が可能となる。そのため、シャコガイ母貝の成熟を人工的に制御し、周年を通して採卵できる技術開発に取り組んだ。

[成果の内容・特徴]

1. ヒレナシジャコとヒレジャコの周年の成熟状況を調査した結果、3～6月に成熟期がみられるヒレナシジャコに対して、ヒレジャコの成熟期は目立った季節変動がみられないことが分かった(図1, 図2)。
2. 加温飼育を行うことで冬季においてヒレジャコを放卵させることに成功した。放卵数は数千万粒と推定された。常温飼育の対照区では放卵は確認されなかった。15個体程度のヒレジャコの母貝を26～28℃に加温飼育することで、冬季において採卵が可能であることが分かった(図3, 図4)。
3. ヒメジャコについても、20個体程度の母貝を26～28℃に加温飼育して自然光と照明を併用することで9個体の母貝から5,540万粒の採卵に成功した。常温飼育の対照区からも3個体の母貝採卵できたが、卵数は270万粒と通常の採卵としては非常に少ないレベルであった。ヒメジャコについても上記処理により冬季の採卵が可能であることが分かった(表1, 図3, 図4)。

[成果の活用面・留意点]

1. ヒレジャコとヒメジャコの冬季採卵に成功したことで、冬季における種苗生産の可能性が開けた。

[具体的データ]

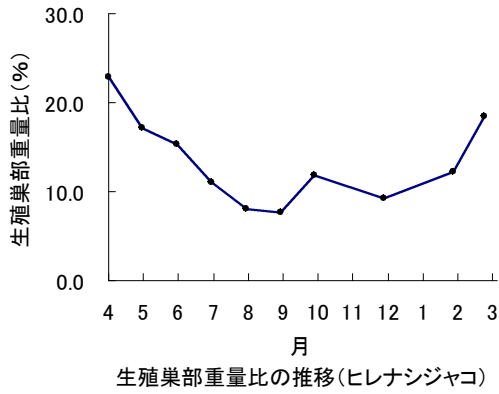


図 1

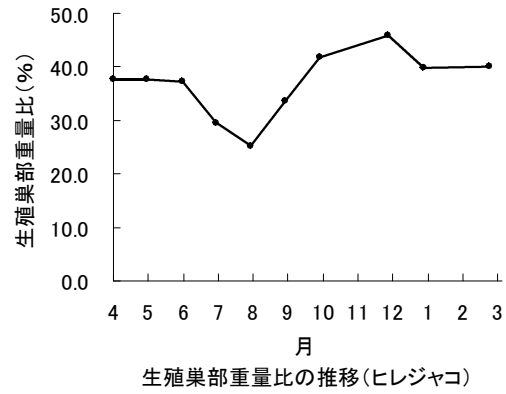


図 2

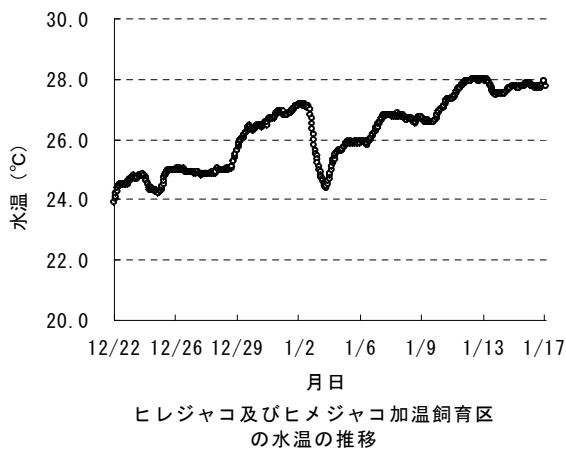


図 3

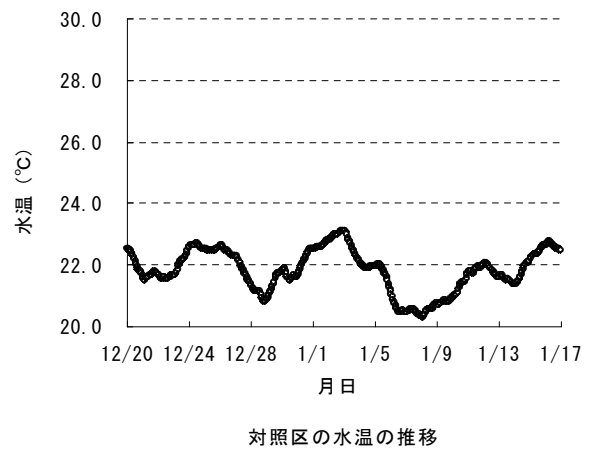


図 4

(表 1) ヒメジャコの採卵の結果

試験区	放卵親数	殻長 (mm)	放卵時間	放卵数 (万粒)	備考
対照区	3	100	19:10	270	3 個体まとめた卵数
		96	19:15		
		108	21:30		
		119	18:50		
加温照明区	9	106	~	5,540	9 個体まとめた卵数
		105			
		106			
		108			
		127			
		117			
		99			
99	20:20				

[その他]

研究課題名：シャコガイ母貝の成熟促進技術開発

予算区分：県単

研究期間：平成16年～18年度

研究担当者：岩井憲司

発表論文等：平成16～18年度沖縄県水産試験場事業報告書